

# さんにはは 日本共産党 綾部市議会議員

# つきがしら 久美子です

大島町榎長16-12  
FAX: 42-9558  
携帯: 090 2285 8627  
メール: kumiko@xi.booo.jp  
ブログ・フェイスブック:  
つきがしら久美子で検索を  
日本共産党綾部市議員団ホーム  
ページ:  
http://www.jcp-ayabe.jp/

## 私の議会質問

一緒に配布するス  
グ  
一議員団ニュー  
とあわせてお  
み下さい

●国の地域医療構想と影響  
・どこに住んでも平等に医療が受けられ  
る保障を  
●登校拒否から学校教育を見直す  
・正規雇用の教職員増員を  
●教育の無償化と就学援助  
・就学援助はもれなく申請されているか  
・障がいを持つ子どもの放課後・休日の  
居場所について

## 今後の医療の方向と綾部での問題

「地域医療構想」の目的は、2025年(団塊の世代が75歳)時点での、高度急性期機能・急性期機能・回復期機能・慢性期機能の必要量を予測し、ベッド数を減らすこと。  
中丹地域(綾部・福知山・舞鶴)医療構想調整会議で、取りまとめがされている。  
今年度中に医療構想策定の計画だが、市内の病院への影響はどうか?  
【答弁】  
市内で、病床機能変更している医療機関もある。市立病院は5月1日から「地域包括ケア病棟」を開院した。手術



いち早く「地域包括ケア病棟」を開院した京都協立病院

などの急性期治療を終了後、医療・看護・リハビリを提供し、30日間を目安に退院準備を進める病棟。  
中丹地域医療構想調整会議で出されている  
主な意見  
・住民の経済力が下がって  
おり、医療需要に影響す  
る。  
・国が進め医療機関にか  
かれない人が増えている。  
・地域医療体制も重要だが、  
今の診療体制が整っていないのが現状。  
・調整会議は結果的に病床  
数を減らすことにつながる。  
・病床数が減ると救急患者  
がたらい回しされるので  
はないか。  
・患者を在宅に戻すと、家  
族の負担が大き。  
・在宅に戻しても在宅医療  
の受け手が難しい。

最大60日入院可能。  
慢性的な医師不足の  
解消の方向は?

「登校拒否」から学校教育を考える  
「不登校の親の会」に参加し、現状をお聞きしました。  
その中で、不登校に対する対応が後退していると感じました。  
20年ほど前は、「不登校の親の会」が学校内でも開催され、学校との連携がとれていました。今はそのような会もなく「要望を出しにくい」との意見が中心に  
見がつかない。  
学校で「不登校の親の会」を持つことについて見解はどうか?  
【教育長答弁】  
校長を中心に生徒指導、養護教諭、学び生活アドバイザー、心の居場所サポーターなどが相談、アドバイスをしている。スクー



市内の中学校

ルカウンセラーや適応指導教室と保護者の面談

で、丁寧な支援を行っている。綾部中学で、自主的に「親の会」が開かれたことは承知している。保護者の判断に委ねたい。  
「親の会」を自主的に開催することは可能ということを確認し、教育長も応援して頂きたいがどうか。  
【教育長答弁】  
学校長と協議していきたい。

【答弁】  
市立病院も、産婦人科など医師確保が大変厳しい。府立医科大学にも支援要請しているが、医師を派遣できる状況ではないと聞いている。非常勤医師の確保も含め粘り強く努めていきたい。  
上林など遠隔地は医療過疎で、往診も来てもらえない。受療権をどう守るのか?  
【答弁】  
国の方向は、「重度な介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしが最後までできるよう、医療・介護・予防・住まいが一体的に提供される地域包括ケアシステム」を目指している。市内に21診療所、15歯科

診療所があるが、遠隔地の往診は困難なことも認識している。  
医療資源に限られて  
いる中、病院間、病診  
間で連携し医療提供が  
低下しないよう取り組  
んでいく。  
【追記】  
医療構想調整会議で  
は、「開業医が高齢  
化しており、10年  
先在宅の患者さん  
が増えても対応でき  
るか疑問」と意見が  
出ている。  
医療過疎は進行し  
ており、市として在  
宅医療体制の充実を  
図ることを強く求め  
ました。

安倍政権の暴走 「野郎する国づくり」にストップを 「アベ政治を許さない」